

令和5年度 放課後等デイサービス だいち 自己評価表

	設問	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標・工夫展等
環境・体制整備	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			
	職員の配置数は適切であるか	○			
	事業所の設備等について、バリアフリー等の配慮がなされているか		○		一か所段差があるが、現在身体障害児が在籍していないため、特に支障はない
業務改善	業務改善をすすめるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか	○			
	保御者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			
	この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者委員を探したが、適切な人がみつからない
	職員の資質の向上のために、研修の機会を確保しているか	○			
適切な支援の提供	アセスメントを適切に行い、子供と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			
	子供の適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			
	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			
	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○			
	平日・休日・長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			
	子供の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等でサービス計画を作成しているか	○			
	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			
	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	○			
	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
送迎時の安全を確保しているか。また安全装置について定期的に点検をしているか	○				

	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ て支援を行っているか	○			
関係機関 や保護者との 連携関係機関 や保護者との 連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議 にその子供の状況に精通した最もふさわしい者 が参画しているか	○			
	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交 換、子供の下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎 時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っ ているか	○			
	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こ ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共 有と相互理解に努めているか	○			アセスメント等を受け取っている。問合 せが来た際にはその都度対応し情報交 換を実施
	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所等 へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報 を提供する等しているか	○			
	児童発達支援センターや発達障害者支援セン ター等の専門機関と連携し、助言や研修を受け ているか	○			CAS(千葉県自閉症発達支援セン ター)や発達協会の資料を使った研 修実施
	放課後学童クラブや児童館との交流や、障害の ない子供と活動する機会があるか	○			
	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加してい るか	○			協議会からの案内の研修やイ ベントに参加
	日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子供 の発達の状況や課題について共通理解を持って いるか	○			
保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者 に対してペアレント・トレーニング等の支援を行 っているか		○		就労している保護者がほとんど で時間的に困難。ただし相談が あった際にはアドバイスを実施	
保護者への 説明責任	運営規程・支援の内容・利用者負担等について 丁寧な説明を行っているか	○			
	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適 切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			
	父母の会の活動を支援したり、保護者等を開催 する等により、保護者同士の連携を支援している か			○	就労・複数の放デイ利用者が多 く、招聘が困難。
	子供や保護者からの苦情について、対応の体制 を整備するとともに、子供や保護者に周知し、苦 情があった場合に迅速かつ適切に対応している か	○			
	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予 定、連絡体制等の情報を子供や保護者に対して 発信しているか	○			
	個人情報に十分注意しているか	○			
	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情 報伝達のための配慮をしているか	○			
事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開 かれた事業運営を図っているか	○				

非常時の対応	防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			
	感染症対応マニュアルを策定し、持続可能な計画を立案し、職員や保護者に周知するとともに情報公開しているか(BCP)	○			
	非常災害の発生に備え、定期的に研修を実施するとともに避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			
	自然災害発生時において、持続可能な計画を立案し、職員や保護者に周知すると共に情報公開しているか(BCP)	○			
	虐待を防止するため、定期的に虐待防止委員会に出席すると共に職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			
	身体拘束を極力行わないよう努めているか。身体拘束防止委員会に定期的に出席しているか。また、やむを得ず実施する場合は日時、期間、内容等を記録しているか	○			
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子供や保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示等に基づく対応がされているか	○			
ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○				

(まとめ) 今年度は新たにBCP等の項目を増やしたが、いずれも5年度中に計画を策定し講習等も実施済みである。コロナも明け、今年度は積極的に研修を増やした(オンライン含む)数年ぶりに救命救急講習、施設見学(民間就労施設)も行うことが出来て、有意義であった。一方で課題である第三者委員は見つけることが難しい状態である。引き続き探していく。また、保護者の中で不適切な接し方をしている保護者にトレーニングもしたが、なかなかアプローチが困難なため、結果的にアドバイスをするにとどまっている

<自己評価表(ガイドラインとは)>

◆これは、平成24年4月に創設された放課後等デイサービス事業が全体的に見てまだ一定の質を保てていないことから国が定めたガイドラインに基づくものであり、評価をすることによって、より質の高い事業実施ができるために使用するツールです。

◆評価表の中で、改善点の指摘が多いことが直接的に低い評価につながるという意味ではない。

◆改善点に気づき、より良い支援を提供する視点をつくっていく指導員を育成することが重要であると考えている。

<だいちの考える評価ステップ>

保護者等による評価+職員による自己評価⇒改善点の提案⇒分析・結果。改善案の公表⇒目標に添って支援の改善

◆改善が必要な点については、物理的に可能な事においては、速やかに改善をおこなっていく。

体制等や他事業との連携等については、市内の他事業所との連携の確立が求められる。

当ガイドラインの項目に限らず、指導員・事業者・保護者からの指摘等があれば随時項目を追加し、よりよい事業体制が整えられるよう努めていく。